児童文学作品紹介フリーペーパー

紙版 ハコブネ×ブックス vol.56

https://hakobune.wp-x.jp

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・ＹＡ作品を未来に語り継ぐ webサイトです。

特集

人間透明化現象を考える

人から見えなくなりたいという願望は、透明人間として暗躍したいということではありません。色眼鏡や好奇の目で見られたくないからです。とはいえ、まったく人から気づかれないとしたらどうでしょう。青ブタのバニーガール先輩のように、次第に見えなくなっていく自分に焦燥するのではないか。人間が透明化する現象が児童文学やＹＡ作品で描かれる時、自分の存在意義と向き合うことがテーマになります。人間の実存は他人から認知されることで成立しているのか。なんて哲学的な命題も考えながら、物語の魅力に耽溺することをお勧めします。見えなくなりたいという気持ちに裏腹なものも、ここには存在します。

青春ブタ野郎は
バニーガール先輩の
夢を見ない
鴨志田一
KADOKAWA 2014 年

メイドイン十四歳

review

作　者　石川宏千花
出版社　講談社
発　行　2020 年 11 月
ISBN　978-4065214435

自他共に認める優等生、中学二年生の男子、吉留藍堂（らんどう）は、先生にアメリカからの帰国子女の転入生の案内係を頼まれます。転入生の浅窪くんは、先天性可視化不全症候群という世界的にも例のない難病を患っており、全身を包帯でぐるぐる巻きにして肌を一切見せません。その症状は、人の脳波に影響を与えて誰からも見えなくなるというものでした。浅窪くんの包帯姿は全校生徒の好奇心を煽ることになりますが、その病気の正体が明らかになった時、正真正銘の透明人間である彼は、揶揄われるどころか、恐怖の対象になってしまいます。なにをされるかわからないという疑心暗鬼は、浅窪くんを排斥しようと動き始め、擁護する立場の藍堂もまた追い込まれます。理解者のいない孤独を抱える藍堂は透明人間の真相を知り、浅窪くんの心情に近づいていきます。

視線の先のきみと

review

作　者　神戸遥真
出版社　くもん出版
発　行　2025 年 11 月
ISBN　978-4774339559

内向的で人から注目されることを嫌う中学二年生のナツが手に入れたのは、他人の視線を逸らして自分の存在を消すことができる特別な能力、アイズブロックでした。ところがクラスの人気者の市川くんにだけは、この力が通じません。市川くんもまた、他人の感情を読み取れる特別な力を持っていましたが、ナツにだけは通用せず、お互いが特別な能力を持っていることを知ります。秘密を共有する者同士として関わるようになった二人でしたが、キャラ違いな自分にナツは引け目を感じます。やがてアイズブロックの副作用を知ったナツは、この力を使わないことを決意するものの、これまでの自分を越えなければならなくなります。自分が本当に欲しかったものを知り、互いを支えあえる関係を見出していくまで、迷走しながらも二人は最適解に近づいていきます。

ある日、透きとおる

review

作　者　三枝理恵
出版社　岩崎書店
発　行　2019 年 10 月
ISBN　978-4265057955

ある日、目覚めると、主人公は自分が意識だけの透明な存在になっていることに気づきます。記憶がなく、自分が誰なのかもわからないまま、空中を浮遊して町をさまよい、中学校の校庭で聞き覚えのある音を聞きます。そこでは吹奏楽部の生徒たちが練習をしていました。主人公は生徒たちの行動を空気のような存在として見守りながら、大人しくいつも一人でいる、どこか不器用な沙夜という女子に特別な感覚を抱きます。沙夜の家について行った主人公は、彼女が同じ吹奏楽部の夕那との友人関係で悩んでいることを知り、次第に自分が誰なのかという予感を覚え始めます。誰からも気づかれない自分を唯一感じとれる人物と出会ったことで、主人公は自分の存在感を取り戻し、やがてこの事態の真相に近づいていきます。透明な自分が、自分であることを見つけ出す物語です。

ビスケット

review

作　者　キム・ソンミ
翻訳者　矢島暁子
出版社　飛鳥新社
発　行　2025 年 7 月
ISBN　978-4868010869

高校一年生の男子、ジェソンは音に対して過敏すぎる体質のため治療を受けながらも、その鋭敏な感覚で、ビスケットを見つけ出す活動を行っていました。ビスケットとは、無視されたり、否定されることで自尊心を奪われ、存在感を失くして、誰からも見えなくなった状態の人たちです。ジェソンは消えかかっているビスケットを探し出しては、社会と繋がらせ、自信を取り戻させて、その進行をくい止めようとしていました。そんな折、ジェソンは叔母のマンションの上階の不審な物音を聞きつけます。幼い子どもが父親から虐待されてビスケット化しつつある状況を掴んだジェソンは、その子を救いだそうとしますが、ビスケットの存在を大人に信じてもらえず苦戦します。無茶な救出計画を実行しながら、ジェソンは、ビスケットを救う動機である自分自身の存在不安や復讐心と向き合っていきます。

特集
人間透明化現象
を考える

ある朝、突然に透明化してしまい誰からも見えなくなってしまった少年は、訳がわからず慌てふためきます。唯一、少年の存在を感じとったのは、事故で目が見えなくなった少女でした。人は人前から姿を消してしまいたいなんて思いを抱きながらも、見つめ合いたい気持ちもあるのです。

ミエナイ彼女ト、
ミエナイ僕。
（アンドリュー・
クレメンツ）
求龍堂 2005 年

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.56
2026 年 5 月 1 日発行　●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト ハコブネ×ブックス（非営利）を運営しています。日本児童文学者協会第 6 回児童文学評論新人賞佳作他,諸々を受賞。

お問合せは
こちらから。